The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学アーカイブズニューズレター　第19号
Author(s)	
Citation	大阪大学アーカイブズニューズレター. 2022, 19, p. 1-8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86464
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ISSN 2187-7270

大阪大学
アーカイブズニューズレター

OSAKA UNIVERSITY ARCHIVES

第19号　2022.03.31

目次：

戦災に遭った大阪帝国大学工学部	1	業務日誌（抄）（2021年9月～2022年2月）	7
大学アーカイブズによる教育活動 ―大阪大学の事例紹介―	2	利用案内　等	8
共同展示会「大阪と北摂の過去後現在をつなぐ記録と記憶」の開催	6		

戦災に遭った大阪帝国大学工学部

1945年３月から８月にかけて、大阪は米軍による爆撃を受けた。いわゆる大阪大空襲である。３月13～14日の大空襲では、中之島の医学部・理学部周辺も被害を受けた。６月７日の第３回大空襲では、東野田にあった工学部は大きな被害を受けた。奇跡的に残った木造建築物は図書閲覧室のみであった。また、コンクリート建物の一部も被災した。

（菅　真城）

大学アーカイブズによる教育活動－大阪大学の事例紹介－

大阪大学アーカイブズ　教授　菅　真城

はじめに

教育活動を行っている大学アーカイブズは少なくない。清水善仁氏は大学アーキビストに「整理者として」「研究者として」「管理者として」「教育者として」の４側面を見いだしているが、教育活動を重視しているところに特色がある。日本の大学アーカイブズが行っている教育活動は自校史教育がほとんどであり、アーカイブズ学教育を行っているところは少ない（清水善仁「大学アーキヴィスト論」『京都大学大学文書館研究紀要』８、2010年）。大阪大学アーカイブズ（前身の大阪大学文書館設置準備室時代を含む。）では、自校史教育、アーカイブズ学教育ともに実施しており、その事例を紹介することで、今後の大学アーカイブズ論の一助としたい。

１．自校史教育

大阪大学では、2006年度から自校史教育「大阪大学の歴史」を立ち上げた。この時の中心は、高杉英一大学教育実践センター長（当時）であり、寺﨑昌男氏のFD講演に高杉教授が感銘を受けたことに始まる（高杉英一「講義科目「大阪大学の歴史」を始めて」『大阪大学文書館設置準備室だより』２、2008年）。この授業は文書館設置準備室が設置される以前に始められており、立ち上げに大学アーカイブズが関与することはなかった。複数教員によるオムニバス形式の授業である。その後菅が授業の一部を分担担当するようになり、2009年度からは文書館設置準備室が授業実施の責任部局になった。やはりオムニバス形式の授業であり、現在まで継続している。経年とともに、アーカイブズ専任教員の授業担当回数が増えてきた。受講者数は年度により多寡があるが、100名程度であり、最も多かったときは200名を超えた。成績評価は、授業各回のレポートを総合して評価していたが、2015年度からは、レポート（80%）に加え、期末試験（20%）も行うようになった。2009年には教科書として、『大阪大学の歴史』（大阪大学出版会）を刊行した。

ところで、自校史教育の実施主体は何処が相応しいのだろう。自校史教育についての議論は多いが、折田悦郎氏の以下の見解（「国立大学アーカイブ私論」『大学アーカイヴズ機能についての基礎的研究－「大学改革」との関連において』（科研報告書）、2004年）が現時点での到達点だと思われる。

> 自校史教育は年史編集の「後始末」から始まるのではなく、大学アーカイブ本来の機能によって行われる。言い換えると、たとえ「年史」が無くても自校史教育は可能であるということであり、アーカイブが主体的に自校史教育を行うのである。（中略）「年史編集室」が自校史教育を行うのはやはり本来的な姿とはいえず、また同様に、教職員によるボランティア的な自校史教育の実施も十全なものとはいえないだろう。重要なのは、ここでも大学アーカイブの主体性であり、システムの構築である。

大阪大学においても、自校史教育「大阪大学の歴史」を何処が担うか議論になることがあるが、やはりアーカイブズが主体的に行うべきであろう。

２．アーカイブズ学教育

２．１　経済学研究科「文書学Ⅱ」

2013年度から2017年度まで、菅が大学院経済学研究科の経済学特論「文書学Ⅱ」を担当した。隔年で、学部同時開講の授業であった。ちなみに「文書学Ⅰ」は近世古文書の解読である。「文書学Ⅱ」は近現代文書が対象だが、担当教員が不在となり非開講状態が続いていた。それを当時文書館設置準備室長であった阿部武司経済学研究科教授が菅に割り振ってくださった。文書学ではあるが、アーカイブズ学の授業をすることにした。経済学研究科は豊中キャンパスにあるが、施設見学の都合もあって、文書館設置準備室がある箕面キャンパスで開講すること

にした。

当初、受講生は歴史系の学生が多いのではと想像していたが、蓋を開けてみると歴史系の学生はほぼいなかった。また、大学院生よりも、学部と同時開講したときの学部生の方が多かった。受講生数は、学部同時開講時で10名程度であった。

授業をする前は、アーキビスト養成教育のようなものを考えていたが、受講生にはアーカイブズに関する前提知識がなく、アーカイブズ学入門のような内容にした。教科書は使用せず、毎回レジュメを配布した。学外のアーカイブズ施設も２施設見学するようにした。見学先は年度によって異なるが、大阪府公文書館、大阪市公文書館、尼崎市立地域研究史料館、大阪産業労働資料館（）エル・ライブラリーである。

成績評価は、テーマに沿ったレポートと課題図書に関するレポートを50％ずつとした。試験をしなかったことで、学部４年生の受講が多かったのではと思われる。課題図書には、瀬畑源『公文書をつかうー公文書管理制度と歴史研究ー』（青弓社、2011年）を指定した。

この授業は、経済学研究科のカリキュラム改革とともに終了した。

２．２　基礎セミナー「アーカイブズの世界に触れる」

2016～2019年度に基礎セミナー「アーカイブズの世界に触れる」を開講した。基礎セミナーは教養の授業で、新入生向けの少人数ゼミである。菅がみずから希望して開講した授業である。

教科書には、松岡資明『アーカイブズが社会を変える　公文書管理法と情報革命』（平凡社新書、2011年）を採用した。新書本をきちんと読める基礎学力を付けるとともに、アーカイブズについて理解することを目的とした。教科書の各章ごとに輪読するとともに、「第２章　アーカイブズの宇宙」については、受講生がそこで紹介されている10のアーカイブズのうちから２つを選び、その内容についてプレゼンテーションを行ってもらった。また、教科書以外にも大阪大学の有するアーカイブズである懐徳堂文庫と適塾資料についても取り上げた。懐徳堂については、文学研究科の湯浅邦弘・飯倉洋一・宇野田尚哉の各教授、適塾については適塾記念センターの松永和浩准教授にご担当いただいた。さらに、文書学Ⅱと同様に学外のアーカイブズ施設と大阪大学アーカイブズの見学も行った。

この授業は教科書が絶版になったこともあり、2019年度限りとしたが、アーカイブズの理解者を増やす上でも、基礎的学習方法を身につける上でも、極めて有効な授業だと考えている。基礎セミナーは学問への扉へと形式を変えたが、今後取り組みたい授業と考えている。

なお、この授業をレポートしたTAの記事が、大阪大学全学教育推進機構のウェブサイトに掲載されているのでご参照いただきたい（https://www.celas.osaka-u.ac.jp/newsletter/04/model-201803/　写真も同サイトから転載）。

「アーカイブズの世界に触れる」授業風景

２．３　アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース

大阪大学アーカイブズは、2021年度（一部先行して2020年度）から、大学院文学研究科・法学研究科・経済学研究科の協力を得て、「アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース」（以下、「アーカイブズコース」と略記）を開設した。2021年６月３日には、独立行政法人国立公文書館の「認証アーキビスト審査規則」第３条（１）イに定める「大学院修士課程の科目」を提供するものとして、「認証アーキビスト審査細則」第２条に加えられた。アーカイブズが主体となって、アーキビスト養成教育を行うようになったのである。なお、文学研究科は2022年度から人文学研究科に改組されることになり、一

部カリキュラムが変更されることになった。

以下、このコースについて紹介するが、一部全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の機関誌『記録と史料』第31号（2022年３月）に掲載した拙稿「大阪大学におけるアーキビスト養成教育について」と重複があることをお断りしておく。

２．３．１　コース開設のきっかけ

アーカイブズコース開設の直接のきっかけは、アーカイブズ室長と担当理事とのアーカイブズの懸案解決のための交渉にある。この場で、アーカイブズが専門職としてのアーキビスト養成の機能を担うことが、専任教員の後継者養成に資することに鑑みて承認された。これは高等教育機関としての大学がアーキビストの養成に対して、より積極的に関与していくことが必要であると考えていた室長にとっても、望ましい方策であった。

それと同時期に、認証アーキビストの動きが起きていたのである。そうであるならば、大阪大学独自でアーキビスト養成を行っても意味がない。大阪大学のアーカイブズコースを学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻と同じように、認証アーキビストの要件としなくてはいけない。こうして、国立公文書館と連絡を取りながら認証アーキビスト養成に持っていったのである。その際、いかに「アーキビストの職務基準書」をクリアするかが課題であった。コース修了でなく、必修科目の単位修得が認証アーキビストの要件であることもその過程で知ることになった。「科目と審査規則別表１との対応関係」をどうするかは、最後の最後まで国立公文書館との詰めが残った。

２．３．２　コースの概要

アーカイブズコースの設置根拠は、大阪大学「アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース」要項（令和３年３月22日大阪大学アーカイブズ運営委員会制定）である。

この要項の別表に、必修科目と選択科目を示している。文学研究科の人文科学研究科への改組に伴い、必修科目には変更がないが、選択科目は一部変更が生じた。以下、2022年度以降のカリキュラムに基づき記述していく。

必修科目は、アーカイブズ学講義、アーカイブズ学演習、アーカイブズ・マネジメント論講義（以上人文学研究科開講）、情報管理法、法政情報処理、著作権法（以上法学研究科開講）である。各科目２単位６科目12単位が必修である。このうち、アーカイブズ学講義、アーカイブズ学演習、アーカイブズ・マネジメント論講義、情報管理法は、アーカイブズコースのために新設した科目である。法政情報処理、著作権法はともに既存科目であるが、アーカイブズコースの必修科目に組み込んでもらった。コースの教科書として、大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビストー記録を守り伝える担い手たちー』（大阪大学出版会、2021年）を刊行したが、実際には教科書というより副読本的な使い方をしている。

このうち、菅が担当しているのが、アーカイブズ学講義、アーカイブズ学演習、アーカイブズ・マネジメント論講義の３科目で学内非常勤講師の立場であるが、アーカイブズ・マネジメント論講義は菅一人では担当できない資料保存とデジタルの問題について、金山正子氏（元興寺文化財研究所）、古賀崇氏（天理大学）、櫻田和也氏（大阪市立大学）にゲストスピーカーの立場で参画していただいている。アーカイブズ学講義は全体の総論的位置づけである。毎回レジュメを配布している。成績評価は平常点と期末レポートによる。アーカイブズ学演習は、論文講読、大阪大学アーカイブズでの実習、学外アーカイブズ施設の見学の大きく三つから構成している。論文講読では、アーカイブズ学の基本的な文献を分担して担当発表し、議論している。大阪大学アーカイブズでの実習は、実際に大阪大学アーカイブズ所蔵資料に触れてもらい、アーキビストとしての仕事を体験してもらっている。個人情報等、学生に見せるのが適当でない情報を含んでいる資料もあるが、工夫を凝らして、実際に資料に触れてもらえる場を提供している。学外施設の見学は、2021年度は大阪市公文書館と大阪府公文書館に受け入れていただいた。アーカイブズ施設といっても多様であり、それを実際に見聞することの教育的効果は高いと感じている。成績評価は平常点によっている。情報管理法（高橋明男アーカイブズ室長）では、個人情報保護法、情報公開法、公文書管理法を扱っている。法政情報処理（養老真一教授）は、情報処理科目である。著作権法（勝久晴夫特任講師（常勤））は、その名のとお

り著作権法に関する科目である。

選択科目は、人文学研究科７科目、法学研究科３科目、経済学研究科２科目で、いずれも既存科目である（いずれも２単位）。近世古文書の解読を始めとして、歴史学系の科目がほとんどである。選択科目名を列挙するならば、日本近世史演習１、日本近世史演習２，日本古代史講義、日本中世史講義Ⅰ、日本中世史講義Ⅱ、日本近世史講義、日本近代史講義（以上人文学研究科開講）、日本法史、総合演習（定性的研究の理論と方法）、日本政治史（以上法学研究科開講）、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ（以上経済学研究科開講）である。

上記のようにアーカイブズコースは科目履修であり、定員はない。

２．３．３　履修者の傾向

履修者は各科目ごとに登録しているので正確には把握しづらいが、2021年度は約10名である。そのうち、文学研究科日本史学専修が過半で最多であり、他には、文学研究科の芸術系（美学・文芸学、アート・メディア論）の学生もみられる。また、法学研究科の行政法の学生もいる。

履修生の多くが学芸員資格取得者（司書有資格者もいる）であり、博物館・美術館の学芸員志望者が多い。公文書館、博物館でアルバイト経験のある者もいる。法学研究科の学生は、市役所で文書管理を担当していた社会人学生である。

２．３．４　大阪大学のアーカイブズコースの特徴

大阪大学のアーカイブズコースの最大の特徴は、教育組織でないアーカイブズが主体となっていることである。そのため人文学・法学・経済学の３研究科の協力を得て教育活動を行うことになる。

履修生は、それぞれ専攻を持っている。アーカイブズ学専攻ではない。大学院でアーカイブズ学を専攻しなくても、単位を修得すれば認証アーキビストの要件となれるのが、大阪大学のアーカイブズコースなのである。教員養成に例えるならば、「開放型」のアーキビスト養成といえるであろう。出口（就職先）は、本来の専攻で考えるのが筋であるが、アーキビストも選択肢に入れてもらえると幸いである。また、アーキビストとしての知識・技能が、アーキビストにはならなくともキャリア形成に寄与することが期待される。

そして、関西地区にはアーカイブズ学を体系的に学べる高等教育機関がない。大阪大学のアーカイブズコースは、関西地区におけるアーキビスト養成・アーカイブズ学研究の拠点たることを目指している。

２．３．５　今後の動向と課題

大阪大学では学際融合教育を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムとして、「大学院副専攻プログラム」、「大学院等高度副プログラム」を提供している。アーカイブズコースは、2022年度から大学院副専攻プログラムに採択された。履修生の増加やモチベーションアップが期待される。

また、大阪大学の非在学生からアーカイブズコースを受講できないかという問い合わせも複数いただいており、実際に2022年度の科目等履修生に出願した方がいる。このように科目等履修生として履修することは可能だが、課題もある。アーカイブズコースは複数の研究科の授業で構成されているため、各研究科に検定料、入学料を支払わねばならず、金銭的負担が大きい。それを解決する方法として、大阪大学には、大学院科目等履修生高度プログラムというのがある。これだと、検定料、入学料は一度払うだけでよくなる。ただ、教育組織でないアーカイブズは幹事部局になることはできず、人文学、法学、経済学のいずれかの研究科に幹事部局となってもらわなければならない。学内調整に時間をとられており、令和４年度からには間に合わなかった。令和５年度から認められるように、学内関係部局と調整を進めている。科目等履修生の多くは社会人だと思われるが、それに対応するには夜間や土曜日に授業を開講することが望ましい。学習院大学と島根大学ではそれに対応した措置が執られているが、大阪大学では対応することが難しいのが実情である。

この他に受けた問い合わせに、大学院に入学してアーカイブズ学を研究したいのだが可能かというものがあった。これは、「開放型」の弱点である。学習院大学のように、主専攻としてアーカイブズ学のどの分野でも研究できるわけではない。例えば、人文学研究科ならアーカイ

ブズ史や文書管理史などを、法学研究科なら公文書管理法や公文書管理条例などを、経済学研究科なら企業アーカイブズなどを主専攻とすることは可能であろう。できるだけ本人の希望と合致させるべく、人文・法・経の３研究科に大学院入学の相談に乗る窓口教員を置いた。

２．３．６　認証アーキビスト養成の今後に向けて

いわゆる「准アーキビスト」については、国立公文書館のアーキビスト認証準備委員会およびアーキビスト認証委員会において検討が進められているが、まだ結論は出ていない。「准アーキビスト」の名称の当否はさておいて、実際に認証アーキビスト養成教育に当たっているものとして、大学院で単位履修した者には何らかの資格を付与することを望む。それが、アーキビストとしての就職に作用すれば理想的である。

現時点で、認証アーキビストの要件になっている大学院教育課程は、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻、大阪大学アーキビスト養成・アーカイブズ学研究コース、島根大学大学院人間社会科学研究科認証アーキビスト養成プログラムの三つのみである。このほか、昭和女子大学大学院生活機能研究科生活文化研究専攻アーキビスト養成プログラム、東北大学大学院文学研究科認証アーキビスト養成コースも2022年度には認められる見込みという。全国各地に拡大することが期待される。大阪大学と同じく国立公文書館等に指定されている大学アーカイブズは、大阪大学の他に11大学ある。これらはいずれも教育機関ではないが、「開放型」認証アーキビスト養成ができるのは大阪大学と同じである。東北大学のコースは、国立公文書館等である史料館教員が先導したと漏れ聞く。大阪大学アーカイブズはそのフロントランナーとして認証アーキビスト養成プログラムの改善、認証アーキビストの輩出に努めていきたい。

おわりに

本稿は、単なる大阪大学の事例紹介に終始してしまった。「はじめに」で述べたように、日本の大学アーカイブズが行っている教育は自校史教育がほとんどで、アーカイブズ学教育を行っているところはごく少数である。アーキビスト養成教育は始まったばかりと言ってよい。大阪大学アーカイブズでは、着実に実績を積み上げていきたい。他の大学アーカイブズでも、いきなり認証アーキビスト養成教育を行うには少々ハードルが高いと思われるが、教養教育としてのアーカイブズ学教育は是非とも進めてもらいたい。日本におけるアーカイブズ理解の向上のためにも。さらにいうなら、初等中等教育でもアーカイブズを取り上げてもらいたい。附属学校を持っている大学では、それに大学アーカイブズが取り組めるかもしれない。大学アーカイブズによる教育活動は、今後の課題が多いのである。

共同展示会「大阪と北摂の過去後現在をつなぐ記録と記憶」の開催

2022年２月１日～２月13日、大阪大学アーカイブズ・大阪府内自治体「公文書管理と保存」連絡会議主催で、共同展示会「大阪と北摂の過去後現在をつなぐ記録と記憶」を開催しました。会場は、阪急電鉄大阪梅田駅２階ギャラリーコーナーを使用させてもらいました。２つのテーマに分け、６団体が出陳しました。

（１）「大阪と北摂の街の風景の記録」では、北摂、大阪大学のキャンパスの来し方の一コマを切り取って展示し、「まち」が人々の生活とどう関わってきたのかを示しました。展示団体は、高槻市、吹田市、大阪大学でした。

（２）「大阪と北摂の橋」では、大阪は水運が発達するとともに多くの橋が架けられ、今日でも地名や駅名に多くの橋の名が使われていることから、大阪の発展と橋の関係を振り返りました。展示団体は、池田市、豊中市、箕面市でした。

阪急大阪梅田駅という人通りの多い場所での開催でしたが、会場の関係上、観覧者数はカウントしていません。

大阪と北摂の橋

大阪と北摂の街の風景の記録

業務日誌(抄)（2021年9月～2022年2月）

2021年

・９月12日　菅、日本アーカイブズ学会2021年度第１回研究集会「アーキビスト教育の新展開－大阪大学・島根大学における認証アーキビスト養成の取り組み」で「大阪大学における認証アーキビスト養成教育への取り組み－」研究発表

・９月30日　『大阪大学アーカイブズニューズレター』第18号を刊行
特定歴史公文書等書庫の24時間空調を停止

・10月５日　菅、全国大学史資料協議会西日本部会2021年度第４回幹事会（オンライン）に出席

・10月７日　アーカイブズ学演習（文学研究科）開講
菅、全国大学史資料協議会2021年度全国研究会（オンライン）に出席

・11月１日　国立公文書館「デジタルアーカイブ・システムの 標準仕様書」説明会（オンライン）

・11月５日　学外から佐多愛彦大阪医科大学初代学長の資料について照会

・11月９日　菅、高松出張。第30回（令和３年度）香川県立文書館運営協議会に出席

・11月16日　マスコミから電話取材

・11月26日　新任教員研修プログラム「大阪大学の歴史」を開催

・11月30日　マスコミから震災と原発事故の公文書を保存継承するための市町村の公文書管理に関するアンケートについて助言要請

・12月10～12日
菅、長崎出張。第８回公害資料館連携フォーラムin長崎に出席

・12月17日　学内から過去の給与表について照会

2022年

・２月１日　大阪大学アーカイブズ・大阪府内自治体「公文書と保存」連絡会議主催の共同展示「大阪と北摂の過去と現在をつなぐ記録と記憶」を阪急電鉄大阪梅田駅ギャラリーで開催（13日まで）

・２月17日　学外から法人文書移管について照会

大阪大学アーカイブズ利用案内

・開室日
次に掲げる日を除く毎日
(1) 日曜日及び土曜日
(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
(3) 12 月 29 日から翌年の１月３日までの日

・利用時間
午前９時30分～午後４時30分

・利用請求の受付
午前９時30分～正午、午後１時～午後４時

大阪大学アーカイブズ構成員名簿

室　長　　高橋　明男（法学研究科・教授）
教　授　　菅　　真城（法人文書資料部門）

〈兼任教員〉

【法人文書資料部門】
瀧口　剛（法学研究科・教授）
三阪佳弘（高等司法研究科・教授）
藤本愼司（工学研究科・教授）
阿部浩和（サイバーメディアセンター・教授）
安岡健一（文学研究科・准教授）
中村征樹（全学教育推進機構・准教授）

【大学史資料部門】
菅　真城（アーカイブズ・教授）
飯塚一幸（文学研究科・教授）
田口宏二朗（文学研究科・教授）
廣田　誠（経済学研究科・教授）
松永和浩（適塾記念センター・准教授）

〈事務担当〉

大阪大学総務部総務課文書管理係

OSAKA UNIVERSITY ARCHIVES

大阪大学アーカイブズニューズレター　第19号

発行日　2022年3月31日
編集発行　大阪大学アーカイブズ
〒565-0871
大阪府吹田市山田丘２－３
吹田キャンパス 生命科学図書館４階
Tel. 06（6879）2421
Fax. 06（6879）2422
E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp
URL https://www.osaka-u.ac.jp/ja/schools/ed_support/archives_room